

令和元年6月21日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04240

研究課題名(和文)旧制高等学校史研究の新展開 いわゆる地名スクールと「外地」との関係を中心に

研究課題名(英文)A New Historical Study of High School as Old System

研究代表者

永島 広紀(NAGASHIMA, HIROKI)

九州大学・韓国研究センター・教授

研究者番号：50315181

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：顕著な成果としては、旧制期における高等学校に進学した朝鮮半島出身者の全体像がほぼ確認された。また、旧制高商に関しても一次的な文書史料を活用することによって、その全貌に迫りうる実態が明らかになったことである。かつ、旧外地からの入学者が多数に上った各校に関する個別の実証作業が進捗したことも特筆できる。一方、旧外地在住の「内地人」の内地進学に関する動態を検証することによって、戦時末期の学徒出陣、戦後の引揚げ学徒と学校編入、新たに「外国人」となった日本国内居住の韓国・朝鮮人・台湾人等の進学、といった従来の研究では十分に検討されていなかった諸課題を横断的かつ実証的に検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

【学術的意義】従来の旧制高等学校(および高商等の高等教育機関)に関する研究は、卒業生や同窓会関係者によって主として「回顧」「顕彰」の立場や観点からなされるものが多かった。しかし、本研究はそうした先行研究を重要視しつつも、より客観的に、かつ「帝国・日本」という地理的空間の中で取り扱うことを企図したものであった。

【社会的意義】旧外地出身者の内地進学、旧外地居住の内地人、内地人の外地進学という複数のルートで形成されていた旧制期における高等教育のあり方は、一方で戦後における「留学/留学生」の前史を形成するものであり、今日の留学生政策の歴史的背景をなすものが多いと言えよう。

研究成果の概要(英文)：As conspicuous outcome, this study could successfully made it clear that the picture of Korean students who had entered the High school and Commercial high school as old system. In addition, this study also had particularly progressed several researches about some high schools that had accepted entrants form colonies. On the other side, this study could revealed the new facts about Korean and Taiwanese student soldiers at the end of a wartime, students repatriated from colonies, and Korean and Taiwanese residents in Japan as foreigner after WW .

研究分野：朝鮮史・高等教育史

キーワード：旧制高等学校 帝国大学 内地と外地 進学

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究の学術的背景 ある旧制高知高校出身の文学者は旧制高等学校を称して、かく喝破したという。曰く「大日本帝国の贅沢品」と。こうした比喩に象徴されるように、少人数の生徒に対する徹底したエリート教育が施され、また実質上の「帝国大学予科」として、今尚ある種のノスタルジーとともに語られることが多い旧制高校である。また、特徴ある学生文化(ストーム・寮歌など)や1920年代後半~30年代前半に頻発した思想問題など、時期やテーマが限定された考証に偏る傾向が強かった。それでも、近年では竹内洋氏の諸論考、あるいは秦郁彦氏の著書等によって、より客観的なデータに裏打ちされた検証、ないしは評価がなされつつある。さて、かつて旧制高校に関する研究は、主として出身者による回顧・顕彰を主体とするものが多くを占め(高橋左門氏の著作、および雑誌『旧制高等学校史研究』1~20号、など)、いきおい明治期以来の長い伝統を有する第一から第八までのいわゆる「ナンバーズクール」に関するものが多かった。また、こうしたナンバーズクールはその多くが1949年5月の段階で旧制帝国大学(東北・東京・名古屋・京都)、ないしは旧制医科大学(金沢・岡山・熊本)を母体とする新制大学に包括されたことにより、当該大学の大学史編纂が進捗するに従って、仮に学外者であったとしても実史料に即した検証が、すでにかなりの程度で可能となっている。

さて、申請者が1998年から2016年にかけて所属していた大学は、大正期の「臨時教育会議」(寺内内閣)によって1918(大正7)年以降に増設された、いわゆる「地名スクール/ネームスクール」の系譜を引く地方国立大学の一つである。大規模大学とは異なり、「大学史」の定期的な編纂もままならない現状ではあるものの、2004年の国立大学法人化から10年目の節目を迎え、ささやかながらも自校史を踏まえたユニバーシティ・アイデンティティのあり方が模索され、また地元の医科単科大学との統合10年を期してミニ大学史(『佐賀大学の物語』2014年9月発行)の編纂が行われ、申請者はこの編集作業に深く参画した。ここでは従来の自校史(『佐賀大学四十年史』<1992年>など)とは大きく一線を画し、かつては全くと言っていいほど顧みられなかった旧制時代にまでその視線を延ばしているところが一つの特徴である。なお、申請者の勤務校と沿革・規模が近似している旧制弘前高校を母体とする弘前大学ではすでに資料整理が完了し、目録も刊行されている。これは同高OBに太宰治(津島修二)が含まれることが大きなモチベーションをなしており、大規模大学でなくとも熱意と努力次第で自校史の検証は十分に可能であることを如実に示している。

ともあれ、旧制高校が果たして「贅沢品」であったか、その当否はひとまず措き、当時の日本を「帝国」なる枠組み、すなわち「内地」と「外地」の連絡関係から理解することは、これまでの旧制高校史研究ではほぼ抜け落ちていた視点であり、翻って、これは旧制高校史研究に新しい検証の視角を与えるものである。とりわけ、西日本の地名スクールと「外地」との関係は、最も地理的に近接していた朝鮮半島との間において極めて顕著に確認されるものであり、それはより具体的には実際に受験・入学・卒業する生徒たちの、しかも「双方向」の異動状況に示されている。これは、本研究が従来の制度史な接近法から脱し、人本位の考証を重視することを意味する。

### 2. 研究の目的

既出の『佐賀大学の物語』編纂の過程で実施された資料調査の結果、佐賀大学学務部には旧制佐賀高等学校の学籍簿(中退者を含む)・身上調査書がほぼ完全に保存されており、また特別入学生徒(留学生)や「学徒出陣」による仮卒業者の名簿なども残存していることが確認された。

またこれをまず同窓会名簿と照合を行った結果、きわめて多彩な出自とステータスを有する入学者/卒業者が存在することが浮かび上がってきた。とりわけ特徴的であるのは台湾・朝鮮・関東州(満洲)・樺太といった「外地」からの入学者が少なからず確認できることである。この場合、外地出身といっても、「外地在住の内地籍保有者(内地人)」と「現地籍の外地出身者(外地人)」の両方を含むことに深く留意しなければならない。とりわけ、外地における中等学校の整備に伴い、「内地人」のみならず「外地人」の内地学校進学が年々増加していることが申請者の予備的な調査で確認されつつある。ただし、この絶対数の多寡に関しては、他高との比較を行うことなしに確定は出来ない。そこで、朝鮮半島に最も近い佐賀での調査手法を、さらに資料の整理が他大学に比して格段に進んでいる近隣の福岡と広島に敷衍し、さらに西日本を中心に旧制高校全体を調査・考察の対象とするものである。

ちなみに、旧制福岡高校に関しては九州大学大学文書館、広島高校に関しては広島大学文書館が関係資料を保管しており、大阪高校・浪速高校に関しては大阪大学アーカイブズ・総合学術博物館にて整理が進められている。姫路高校に関しては神戸大学に学籍記録が保管されるとともに、兵庫県立大学・姫路キャンパスに同窓会収集資料の展示施設が存在するものの、関係者の高齢化とともに散逸の危険がある。松山高(愛媛大学)・高知高(高知大学)・松江高(島根大学)・山口高(山口大学)に関してはそれぞれの後継大学・学部が継承しているものの、島根大を除き整理は進んでいない。

なお、長崎医科大学附属医学専門部を改編した戦後特設高等学校(理科のみ、徳島にも設置)である長崎高校は、わずか3年間(1947~1950)しか存在せず旧制高校史では空白となっているが、原爆による戦災に伴い一部の実習授業は隣接する佐賀高校で行われていた事実など、

戦後の特設高校に関しても、地名スクール研究の一環として取り扱うことが可能である。

### 3. 研究の方法

旧制の官公私立高等学校は新制の大学に包括されており、その学籍記録も継承されているが、個人情報保護の観点から、卒業生本人もしくは親族以外の閲覧は難しい。とすると、まずは基本史料としての同窓会名簿が有用である。しかし、1950年3月に最後の卒業生を出して以来、新規の加入者は存在せず、しかも原則として卒業生ベースであることから中退者の動向を追うことは困難である。そこで次善の史料として重要かつ簡便なものとしては各学校が毎年発行していた『一覽』がある。法令、年史、教職員氏名、学則などがコンパクトに編纂されており、極めて史料価値が高い。しかも生徒名簿がその本籍地・出身校とともに掲載されているが多いことから、中退者を含んだ全体的な入学者の動向を追うことが出来る。ただし、戦時末期・敗戦直後期に関しては情報が不足するので、国立公文書館所蔵の公文録などをたよりに復元していく手法をとる。

### 4. 研究成果

本研究課題は、九州大学大学文書館・広島大学文書館・福岡大学人文学部歴史学科にそれぞれ所属する研究者とともに共同で遂行された。顕著な成果としては、旧制期における高等学校に進学した朝鮮半島出身者の全体像がほぼ確認され、また台湾出身者についても、いまだ悉皆的なデータではないものの、主要な学校に関するデータの収集を終了することが出来た。また、福岡高等商業学校をはじめとする旧制高商に関しても一次的な文書史料を活用することによって、その全貌に迫りうる実態が明らかになったことである。かつ、佐賀高等学校・広島高等学校・第六高等学校といった旧外地からの入学者が多数に上った各校に関する個別の実証作業が進捗したことも特筆できる。一方、旧外地在住の「内地人」の内地進学に関する動向を検証することによって、戦時末期の学徒出陣、戦後の引揚げ学徒と学校編入、新たに「外国人」となった日本国内居住の韓国・朝鮮人・台湾人等の進学、といった従来の研究では十分に検討されていなかった諸課題を横断的かつ実証的に検証した。さらには、2019年3月2日には九州大学伊都キャンパス内において「東アジア社会における学歴/学校歴の位相」と題した国際シンポジウムを開催し、旧制高校・高商のみならず、その進学先たる各「帝国大学」、さらには台湾と朝鮮半島における1945年以降の高等教育にも視線を延ばした各種の研究報告がなされた。今後はこうした成果を基に学術書の公刊に向けた具体的な作業に入っていくことになろう。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

永島広紀「二つの高宗実録編纂をめぐる宮内省・李王職の葛藤〔原題：韓国語〕」『韓国史學報』64、51-57頁、査読有、2016年

永島広紀「京都帝国大学入学者における「正系」と「傍系」特に「外地」出身者の入学形態をめぐって」『京都大学大学文書館だより』33、2-3頁、査読無、2017年

永島広紀「敗戦直後の福岡における『叢智』誌周辺の動向について」『活字メディアの時代 近代福岡の印刷と出版』〔新修福岡市史 特別編〕310-326頁、査読無、2017年

永島広紀「箱崎に学んだ留学生の戦前・戦中・戦後 林学者・玄信圭の足跡を辿る」『アジア游学』224、177-186頁、査読無、2018年

通堂あゆみ・永島広紀「京城帝国大学の女子学生」『韓国研究センター年報』19、43-65頁、査読無、2019年

永島広紀「The Compilation of the Annals of the Korean Emperors Kojong and Sunjong by the Japanese Imperial Household Library and the Yi Royal Household」『ACTA ASIATICA』117、43-65頁、査読有、2018年

福嶋寛之「福岡大学と植民地 1930年代～1960年代 (2)」『福岡大学人文論叢』47-1、19-45頁、査読無、2015年

福嶋寛之「福岡大学と植民地 1930年代～1960年代 (3・完)」『福岡大学人文論叢』47-2、403-429頁、査読無、2015年

石田雅春「昭和戦前期における高等学校の就学・進学実態：広島高等学校を事例として」『広島大学文書館紀要』18、46-53頁、査読無、2015年

石田雅春「昭和戦前期における広島文理科大学学生の構成と社会進出」『広島大学文書館紀要』20、18-34頁、査読無、2018年

〔学会発表〕(計4件)

永島広紀「韓国統監府・朝鮮総督府の技術系官吏」九州史学会(2015年12月13日)

永島広紀「<建国大学>時代の森克己 満洲国における史学研究のあり方」九州史学会(2018年12月9日)

永島広紀「韓国の医学界と《帝国大学》 九州帝国大学を中心に」延世大学校医科大学・医学史研究所第70回月例発表会(2019年3月25日)

福嶋寛之「在外日本人と教育」七隈史学会（2018年9月29日）

〔図書〕(計2件)

(共著)『寺内正毅と帝国・日本』勉誠出版(2015年)45-86頁

(共著)『日帝の植民支配と在朝日本人エリート〔韓国語〕』語文學社(2018年)18-38頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：藤岡健太郎

ローマ字氏名：Fujioka, Kentaro

所属研究機関名：九州大学

部局名：大学文書館

職名：准教授

研究者番号(8桁)：00423575

研究分担者氏名：福嶋寛之

ローマ字氏名：Fukushima, Hiroyuki

所属研究機関名：福岡大学

部局名：人文学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：20441735

研究分担者氏名：石田雅春

ローマ字氏名：Ishida, Masaharu

所属研究機関名：広島大学

部局名：75年史編纂室

職名：准教授

研究者番号(8桁)：90457234

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：該当なし

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。